volume 129

変わる日本の「暮らし」と「まち」

こたつに入って団地の未来を語る ユニークなイベントを開催

愛知県名古屋市　白鳥パークハイツ大宝大宝団地　PLACEMAKING

2023年●令和5年〜

阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

三種の神器の一つである草薙神剣をまつる屈指のパワースポット、熱田神宮を擁する名古屋市熱田区。緑濃い神宮の森だけでなく、熱田神宮公園や古墳もある白鳥庭園、白鳥公園などもあり、子育て世代にも人気のエリアだ。

今回の舞台は、その熱田区内にある白鳥パークハイツ大宝（大宝団地）である。名古屋市営名港線の日比野駅から徒歩約10分の地にあり、名古屋駅まで最短12分という地の利も魅力のUR賃貸住宅だ。

この団地の集会所で、今から遡ること約2か月の3月18日。「こたつ」をキーワードにした、ユニークなイベントが開かれた。「自分の居場所をつくる」＝プレイスメイキングと題されたイベントの様子をリポートする。

大人も子どもも楽しめるイベント

「今回のイベントは、団地の活性化やコミュニティの形成を通じて、居住者の方々が知り合ったり、つながったりする場をつくろうと企画しました。大宝団地では、昨年の5月にも『大宝フェスタ』と称した屋外イベントを開催しています。その際は、フリーマーケットなどを設けて、来場した居住者の方のお話をお聞きしたのですが、今回はさらに、お住まいの方々が団地をどう使っていきたいのかをじっくりお聞きしたい、と、膝をつき合わせられる『こたつ』でおしゃべりする、というイベントにしました」と話すのは、企画を立案したUR中部支社住宅経営部ウェルフェア推進課の成田 遼だ。

当日は、集会所に「おしゃべりこたつ」と名付けた2基のこたつを設置。おもちゃと遊びのスペシャリストであるおもちゃコンサルタントが応援にかけつけ、かわいい子ども用テントや、なごや子ども応援文庫ono onoからの絵本も並び、外にはキッチンカーも…と子どもにもうれしい内容になった。

3歳と1歳の女の子を連れて訪れた30代のお母さんは「新しいおもちゃがあって、子どもも大喜びです。集会所があるのは知っていたけど、入ったのは初めて。団地に住んで2年目ですが、コロナもあって子どもも親も交流するのが難しかったので、こういう機会があるとうれしいですね」と笑顔を見せる。お父さんも「子どもを遊ばせながら、親が息をつける貴重な機会。父親同士が知り合うきっかけになるとうれしいですね」と話してくれた。

小学校5年生と年少の女の子を連れた30代夫婦は、大宝団地に住んで11年目になるという。

「この団地は公園も近いし、熱田神宮も徒歩圏内で、とても住みやすいです。今日は普段遊ばないおもちゃがあるし、新しい本も見られて、子どももうれしそう」というお母さんに「こういう催しは、子どもも大人も楽しめていいですね。また機会があれば、ぜひ参加したい」とお父さんが言葉を継ぐ。

子どもたちとゲームで大盛り上がりしていたおもちゃコンサルタントの女性は、いっしょに遊んだり、おもちゃの遊び方を教えたり、と大活躍だ。

「東京おもちゃ美術館から無料でおもちゃをお借りして、ボランティアで活動しています。子どもが喜んで遊んでいる様子を見るのは楽しいですし、こういう集会所があると、雨の日でもイベントができていいですよね」と話す。

団地を地域の資源として活用する

子どもはおもちゃや絵本で楽しく遊び、大人はこたつでまったりしながら、普段はできないおしゃべりをする…そんななかから「コミュニティづくりのきっかけとなる、一つの成果が生まれました」と、成田が声を弾ませる。

こたつで団欒。会話も弾みコミュニティ作りには最適。

「団地で活動している子ども会があるのは以前から聞いていましたが、今まで接点がありませんでした。今回、偶然子ども会の会員さんがイベントに来てくださってお話をしたところ、次の会合に参加できることになりました。今後は、合同で子どもさん方に楽しんでもらう場をつくるなど、連携の形を探っていきたいですね」

ウェルフェア推進課長の須藤弘臣は「こうしたイベントの目的の一つが、団地やまちで活動されているキーパーソンとつながりをもつことです。そういう方々がイベントに興味を示して参加してくださることで、その方のつながりから次への展開が開ける。将来的には、共に連携して、いずれは団地や地域を一緒に盛り上げていきたい、と考えています」と話す。

URでは、団地を地域の資源として活用し、団地を含む地域一体で〝多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち〈ミクスト・コミュニティ〉づくり〟を進めている。今回のイベントも、住むだけでなく、まわりの環境も含めて試行的に使いながらコミュニティをつくり、暮らしをより豊かにするウェルフェアの一つの形でもある。

「団地を地域の資源として生かしながら地域に開くことで、団地と地域の方が垣根なくつながってくだされば」と語る須藤。より暮らしやすく、豊かで居心地よい団地に。URの挑戦と試行錯誤は続く。

街に、ルネッサンス
UR都市機構
東北の復興まちづくりに 全力で取り組んでいます
［企画制作］新潮社